

研究通信

No.16

1955年 8月刊

村落社会研究会
編 纂 部
東京都文京区本富
士町、東京大学
文学部、社会学研究

新しい発展へ

(福岡) 喜多野 浩一

われわれの研究会もこの十月には第三回大会を迎えることになり、その上年報の第二巻もそれに先立って発刊出来るというところで、全く順調な発展を辿っていることは、まことに御同慶に堪えないところだ。しかしまたこの際、なお一般の充実をはかって、真に研究団体としての真価を發揮しよう、會員相互の忌憚なき協賛に基き、新しい発展への方策を樹立すべき時機でもあると思うので

す。まず毎日新聞社の後援によって、大阪で独立に大会を開きうることになったのは、たしかに新発展への第一歩として喜ばねばならないことではしよう。というよりは、そういう結果にしなればならないと思ひます。これには九州での日本社会学会からの掃途というハンディキャップがありまされど、是非多数会員諸兄の参集をえり、研究発表に討議に、また懇親に、一層盛んな興を示して、この踏み出しを力強いものにしなればならないと思

います。それとともに関西地方における新會員の獲得と、その積極的協力を確保する好機として頂きたいのです。当初から微力を捧げときた九州地方會員として、例年のように、日本社会学会大会のあと、やはり九州で村研大会のお世話をするという楽しみを失うことは、まことに残念なのですが、このような新しい発展のため、またそれを期待するが故に、あえて断念した次第でした。

また会の発展のためには独立で大会を持つという方向に進める必要はどうかもあるわけですが、案外早くその機会を恵まれたのは喜ばしいのですが、この機会を生かして会を育て上げるには一段の努力が必要でせう。今後この方式を持続させる上に、今度の大坂大会を成功させることは極めて大切な意味を持つと思はれます。このためには、要は會員一人一人の積極的な熱意の問題でありませうし、その点は現状から推して私も樂觀者の一人であるわけだ。たゞ私としてはこのような大切な機会にあるという自覚において、熱心この機会に行はれることを期待してやみません。この機会に、私としては、村研の研究団体としての性格について自省し、その自覚を新たにして再出発したいと思ひます。色々な方向、立場からする色々な意見がありうると思ひます。そのどれかに着目しなばならないなどとは決して考へません。

むしろ包容的であることを望みたいのですが、それでも村落社会研究という共通の、それも仲々に問題の多い目標を追う研究団体として、われわれの研究会はどのような協力形態を持ち、どういふ方向に主要な努力を向けるべきかについて、この際お互に理解を共通にし且つ強めてゆきたいと思ひます。最少

若狭線での漠然たる結合でなく、可能な最高限界での協力はどういうようにして可能且つ有効であるかを、お互に自省し、協力の自覚を新たにしたいと思ひます。それと關聯して例年の大会の持ち方も問題になると思ひます。課題委員の提示する課題について少数者の研究報告があり、それを討議するという方式は、前述の協力形態の一つとして適当なものであり、なお持続されてよいと思ひますが、従来の成績では幾多反省すべき点があります。しかしそれは改善を重ね工夫を加へることによつて、この方式本来の長所を發揮させるようにすればよいと思ひます。

ところでそれと並んで自由研究発表の方式も採用してはどうかと思ひます。課題方式の長所、課題の重要さ面白さ、課題委員の苦心などよく解っていないながら、直ちにそれに食いついてゆけない事情を考えねばならぬと思ひます。一例をあげると會員各自自分の研究テーマがあり、それに携つて忙しい、その他にも色々忙しい、会の方でも會員を動かして課題に依つて貰うだけの研究費提供とか、研究組織を作るとかの力を今のところ欠いていて、課題は重要な意味があるし面白くは思ひますが、それに積極的に取り組めない、課題が理論的精度を加えてゆけばど一層討議に加はるための専門的な準備を持つ暇がなくて、しかし關心は充分持ちながら参加する會員も一人であるが、一が少なくないのではなにかかと思ひます。これらの改善について、この課題方式のよさを發揮するように具体的な手が考えられる必要がありまじやう。しかしそれとともに、右のような興情に対応して自由発

表方式を採り入れることが、もちろんその採り入れ方についてはまた色々問題がありま
すが、—会員の発表機会を拡げ、討論を活発
にすることに、ひいては今後の独立大会
方式を持統してゆく上に有効ではないかなど
と考えるのです。

紙幅がないので、これでやめますが、研究通
信の編集についても、新しい情勢に感ずる
強化改善を考えてはどうかと思いますが、こ
れには色々ないし、特に経済的—条件が備わ
らねばなりませんし、それに私見での強化と
いうのも、やはり会員相互の研究上の連絡提
携を強めるということを当面の目標とする発
言でありますから、これだけに止めまして、
なんと言つてもこの秋の大会を成功させて、
新らしい発展の歩みを力強く踏み出したいま
の、だという念願を卒直に披瀝し、思いつくま
ゝを認めて諸兄に訴ふる所似であります。